

中部方面混成団

司令による状況報告



広報館の視察

小野寺防衛大臣視察
 山下元利元長官以来三十五年ぶり
 平成二十六年七月三日(木) 大津駐屯地(司令・武政賢一・一陸佐)を防衛大臣が視察した。
 混成団及び駐屯地の状況報告の後、第四陸曹教育隊による障害走の訓練展示、大津駐屯地広報館を視察した。
 大臣は、駐屯地全隊員に対し「現代の防人として強い責任感を持ち、国民の期待に応えられるよう任務に邁進してもらいたい」と訓示した。

第47普通科連隊広島土砂災害派遣



安佐北区三入での捜索活動 (8月20日)

第四十七普通科連隊(連隊長・齊藤肇夫・一陸佐)は、平成二十六年八月二十日に発生した広島市の大規模土砂災害に際し、第十三旅団隷下部隊となり災害派遣活動を実施した。連隊は、当初、広島市安佐北区で二十一日からは同市安佐南区八木地区で警察消防などと連携して行方不明者捜索を実施、二十三日での活動を第十七普通科連隊(山口)に引き継いだ。九月十日は、残る行方不明者を捜索すべく地域を広げて行われた一斉捜索に参加し、古川地区担任部隊として活動した。連隊の災害派遣活動は過去三回あるが、混成団隷下となっては始めてのケースである。



安佐南区八木地区での捜索活動 (8月21日)



安佐南区古川地区での捜索活動 (9月10日)



押川連隊長との懇談



格闘訓練の見学

中部方面混成団友の会(会長・田中清司氏)は、九月四日、恒例の団隷下部隊への激励行事を行った。行事には、会長以下四名が連隊(連隊長・押川省三・一陸佐)を訪問し、部隊の概要の説明を受けるとともに、基幹隊員の格闘訓練、駐屯地史料館を見学した。
 参加者は、四十九連隊に対し一層の理解を深め、改めて連隊への協力支援を約束し、連隊を激励した。

かけはし



MACB
QRコード
編集・発刊

中部方面混成団
本部広報室

Tel.077-523-0034

中部方面混成団友の会
第四十九普通科連隊を激励
「豊川駐屯地を初訪問」

写真特集／広島土砂災害派遣 ～被災者のために～

第四十七普通科連隊



広島市内は八月二十日未明、局地的に一時間に一〇〇ミリを越える集中豪雨となり安佐北区と安佐南区で土砂崩れや土石流が発生して多数の住宅が飲み込まれた。

第四十七普通科連隊は、二十日警察と消防と密接な連携を図り、安佐北区三入地区の捜

索活動を行い終了した。二十一日の早朝からは、多数の行方不明者が予想される安佐南区八木地区の捜索活動を行い、夜間作業においても不休の活動で全力を尽くした。九月十日には安佐南区古川地区の一斉捜索を行い本災害派遣における任務を完了した。

支える力を合わせて



土石流の撤去作業



被災地に向かったの黙祷

第47普通科連隊 今こそ真価を発揮せよ！



たまった土石の除去



徹夜での夜間作業

第四十九普通科連隊



第一次連隊射撃野営

連隊は、七月十一日から十六日までの間、あいち野演習場において第一次連隊射撃野営（八一ミリ迫撃砲及び一二〇ミリ迫撃砲射撃、爆破訓練等）を行い射撃練度等の向上を図った。

本野営間、重迫撃砲中隊の訓練検閲を実施、中隊長以下五十九名（即応予備自衛官三十四名を含む。）の隊員が、課目一陣地攻撃における普通科連隊内重迫撃砲中隊の行動（実弾射撃を含む。）について受閲した。

本検閲が初の試みとなった二個小隊（四個分隊）編成及び掘開陣地（第四施設団第三〇四施設中隊との協同訓練）からの射撃を実施、受閲部隊は中隊長を核心とし全隊員が一体となって射撃任務を完遂した。



訓練検閲隊容検査



中隊攻撃命令下達



射撃陣地からの120ミリ迫撃砲射撃

第二次連隊射撃野営



小火器戦闘射撃



01式軽対戦車誘導弾射撃



訓練状況を視察する混成団長(左)



射撃を見学する即自雇元企業主等

連隊は、七月二十七日から三十一日までの間、あいち野演習場において第二次連隊射撃野営を実施し、各種火器等の射撃練度向上を図った。

連日厳しい猛暑の中での訓練となったが、各種射撃訓練をはじめ各中隊計画の訓練も併せて実施し、これまでに積み重ねてきた練成の結果を発揮、所望の成果を収めた。

この間、関係地方協力本部と連携し、即応予備自衛官雇用企業主等に対し本招集訓練を公開した。今年度は二十八日から三十日の三日間を設定し、十府県内から三十七社五十五名が訓練を見学した。参加者からは、「一生懸命に訓練に取り組み、普段の職場とは異なる社員の姿を見て感動した。」との感想が得られた。

また、二十九日には混成団長が訓練を視察し、訓練状況を確認した。

混成団友の会来隊 激励行事

友の会に於ける激励行事が、九月四日、中部方面混成団友の会による激励行事が豊川駐屯地において行われた。本激励行事は、混成団隷下部隊に対して毎年実施されてきたもので、連隊は混合成団への編入後初めての激励受けとなった。田中会長以下四名の一行に対し当初ブリーフィングを実施し、駐屯地及び連隊の概要について理解促進を図り、その後訓練及び駐屯地見学の場を設定した。隊員は随所で会員からの声掛け等激励を受け、士気高揚の大きな一助となった。

本行事では副団長（佐藤一佐）が随行し、着任後初めて連隊を視察した。



射撃検定



救急法



職務訓練（車両整備）



職務訓練（野戦築城）



会長等四名が来隊

技能公募予備自衛官招集訓練を担任

連隊は、平成二十六年技能公募予備自衛官招集訓練（八月一日〜五日）及び第二次（九月五日〜九日）にわたり担任実施した。

訓練には医師、看護師、薬剤師、弁護士、建築士、整備士、通訳等が参加し、射撃・救急法等の共通課目、その他、他職種隊の協力のもと各予備自衛官の技能区分に応じた職務訓練の主体に実施した。訓練参加者は、各自の専門的知識及び技能を発揮できるような、最終的に訓練に励み、練度の向上を図った。

第四陸曹教育隊



第七期中級陸曹集合教育

平成二十六年七月七日から九月三十日までの間、第五〜八期中級陸曹集合教育を実施した。

本年度から中級陸曹集合教育を上級陸曹教育中隊(中隊長・浦井泰彦・三陸佐)が担任、約二週間の教育を実施し、その集大成を青野ヶ原演習場に場所を移し、総合訓練として「行進に引き続く陣地攻撃」を実施した。各学生は、整齊と約三十キロの行進を終えると、各小隊ごと攻撃目標に向けて前進、職種・特技に関わらず、ここで学んだ指揮能力を発揮し、目標奪取まで、基礎動作を確行し行動した。

修了式では、第四陸曹教育隊長(谷俊彦・一陸佐)から「俺を見よ、俺に続けのリーダーシップを発揮し、部隊の真の原動力となるように」と式辞を述べられ、短い修学期間であったが、各人が中堅陸曹としての地位を認識し、日夜努力した結果また一歩、戦闘員として成長し、各部隊へ帰隊した。



突撃発揮位置への緊迫



分隊長による目標地域の確認



陸曹候補生に負けるな!

平成二十六年第一回現地訓練

平成二十六年九月二十九日、第四陸曹教育隊は、戦史教育を実施した。

今回は、戦国時代を終息させた天下分け目の戦い「関ヶ原の戦い」を題材として行われた。当初、西軍の前線司令部となった交通・軍事上の要衝、大垣城を研修、家康の陣営固めとして精力的な書状や西軍諸将に対する誘降作戦等の積極的な情報戦をした当時の状況を研修し、その後、関ヶ原古戦場に場所を移し、東軍、黒田長政の陣地跡を次いで、西軍、石田三成の陣地跡等を歩き、基幹隊員の戦術的思考力の向上の成果を収め修了した。



黒田長政陣跡



優美な佇まいの大垣城



勝因・敗因の意見発表



訓練科長による説明

平成二十六年八月一日付をもって、第四代第四陸曹脅威区隊最上級曹長を拝命しました和田准尉です。
中部方面隊唯一の陸曹教育隊の最上級曹長として勤務するに当たり、その職責の重さに身の引き締まる思いであり、今後は教育隊長の統率方針の下、「プロ意識と感謝」を業務方針として職務に専念する所存であります。
平成二十六年三月にいよいよ「上級曹長制度」が運用され、皆様から期待される最上級曹長となるべく、努力する所存であります。
力・必・達(努めれば必ず達成できる)をモットーに、職務に邁進いたします。



准陸尉 和田 稔之

プロ意識と感謝

第一〇九教育大隊



予備自衛官等訓練開始



訓練開始式において元気よく申告を行う予備自衛官補

第一〇九教育大隊（大隊長・猪股倫夫・二陸佐）は、七月十四日から平成二十六年年度予備自衛官召集訓練（約一八〇名）及び予備自衛官補召集教育訓練（約一、三七〇名）の担任を開始した。近年、自衛隊への関心が高まる中、特に、大学生等若い世代が訓練等に積極的に参加する姿は心強く、国防だけでなく社会に貢献しようとする意識が感じられた。

これからも大隊は、活気に溢れつつ厳しくも懇切丁寧に愛情を持って隊員に接し訓練を行い、何事にも明るく元気に前向きに取り組む所存である。



戦闘訓練の指導を受ける予備自衛官補



10km行進訓練に望む予備自衛官補

第一〇九教育大隊（大隊長・増田樹紀・二陸佐）は、九月十七日から十八日までの間、六名の企業職員に対する生活体験支援を担当した。

生活体験では、基本教練、十キロ行進、乃木資料館見学を実施した。基本教練では、「素早く丁寧に」と自分たちで目標を立て取り組み、積極的に訓練に参加していた。十キロ行進では荷物の重さに苦戦したもの、全員完歩した。

それぞれ自分たちの職場や生活の中で活かせるものを見つけたようで、初日の顔つきとは違い、充実感いっぱいの滂刺とした顔になって二日間の生活体験を終了した。

生活体験



10km行進

第一〇九教育大隊



家族オリエンテーション



大隊長を囲んで記念写真

大隊は九月十八日、転入家族に対するオリエンテーションを実施した。各中隊から七家族が参加し、大隊長挨拶・総務係長によるブリーフィング・乃木資料館見学・会食を実施し、部隊に対する理解と、家族間の交流を深めた。会食時には会話もはずみ、わずかな時間であったが、楽しい時を過ごしていた。

今後とも大隊は部隊と家族の交流施策を継続し、部隊と隊員・家族間の信頼関係を築いていきたいと考える。

第110教育大隊長紹介

第一一〇教育大隊長
増田 樹紀 二佐



プロフィール

生年月日 昭和三十七年四月二十二日

出身地 長崎県

主要勤務地

第二普通科連隊
第二十九普通科連隊
北部方面総監部装備部
普通科教導連隊中隊長
富士学校
富士教導団本部
富士学校普通科部
第十特科連隊付
第四十九普通科連隊
富士学校普通科部
第三十五普通科連隊副連隊長

(高田) (倶知安) (札幌) (滝ヶ原) (富士) (富士) (富士) (豊川) (豊川) (富士) (富士) (富士) (守山)

副団長紹介

中部方面混成団副団長
佐藤 文章 一佐



プロフィール

生年月日 昭和三十六年九月十七日

出身地 福岡県

主要勤務地

第二十八普通科連隊
少年工科学校
幹部学校
第一混成群
富士学校
米国陸軍兵站管理大学
補給統制本部
西部方面総監部
第十四旅団司令部
善通寺駐屯地業務隊長
西部方面総監部
普通科教導連隊長兼て駐屯地司令
自衛隊高知地方協力本部長

(高知) (滝ヶ原) (健軍) (善通寺) (善通寺) (健軍) (十條) (米国) (富士) (那覇) (目黒) (武山) (函館)

駐屯地夏祭り



八月八日(金)、大津駐屯地(司令・武政賢一・一陸佐)は、駐屯地夏祭りの開催に伴い、駐屯地を一般開放した。

夏祭りでは、夕方から盆踊り大会を開催し、各部隊が披露した江州音頭の中から、第四陸曹教育隊共通教育中隊が見事優勝した。

その後、大津市内で開催された「びわ湖大花火大会」を観覧し、訪れた二一〇〇名の来場者は、途中からの雨にもかかわらず、びわ湖の湖面を彩る鮮やかな花火に大きな歓声をあげ、隊員と夏のひとときを大いに楽しんだ。

故土手善夫一尉五十回忌慰霊祭

九月六日(土)、故土手善夫一等陸尉五十回忌慰霊祭が滋賀県守山市美崎自治会及び防衛協会守山支部の主催で、守山市長を始め、地元住民関係者一五〇名が参列し、しめやかに営まれた。

慰霊祭には、駐屯地司令始め、自衛隊関係者も参列し、故土手一尉の冥福をお祈りした。

故土手一尉は昭和四十年の台風二十四号で滋賀県野洲川が氾濫し、災害派遣出動、三十三名の隊員を指揮し、孤立した住民を助けるため、ボートで作業中の所転覆、三人の隊員とともに川に投げ出された。隊員三名は下流で救出されたが、土手一尉は、転落防止のため体に巻き付けていたロープが絡みその場で殉職した。



慰霊碑に手を合わせる司令